

この団地のハウスマスターという立場のウンツタックさんに団地内を二時間に亘って説明してくれた。この団地は1985年に建設された。

健康ということを重視してデザインされたので、従来の計画予算よりオーバーしてしまい、断熱面などの費用が割かれてしまい、断熱面では十分とはいえない。

もちろん12年前のことだから、断熱が充実していないのはしかたのないことだが、ここの建物は中空ブロック造で、ジョイント部分に断熱欠損が出やすい。そこで、現在は赤外線カメラをつかってそうした状態を検査している。

西側の住戸は冬の西風をまともに受けるため寒く、2年前に改善した。

この団地の平均的な住戸は、3.5部屋で90~95㎡で4~5人家族である。

我々是一件の住戸の中を見せてもらうことになった。その家は子供が4人もいらっしゃる家で、そのせいか室内は雑然とした状態だった。ガイドさんによれば、ドイツの人間は神経質なくらいに整理整頓が厳しく、室内はいつもピカピカの状態であり、この家は珍しいものだという。

その理由は、団地内の子供全員が近くにあるシュタイナー学校に通っており、その自由な生活の提唱が影響しているのではないかとのこと。見学させていただいた家の奥さんに感想を聞いてみると。

○よい点：外で子供達を遊ばせることができる。

●悪い点：家の中に位部分が多いので、いつも照明が必要だ。

：オープン形式なので、いつも家族の誰かと衝突している。

：音も家の中全体に通じてしまう。

：上の階の音も侵入してくる。

団地内住戸の家賃は13マルク/m<sup>2</sup>・月だが、一般的には、暖房などをいれて1600マルク/月かかる。



周辺の団地は四角い箱であるが、この団地は昔ここに存在していた農家の大きな屋根を象徴して瓦屋根をのせている。



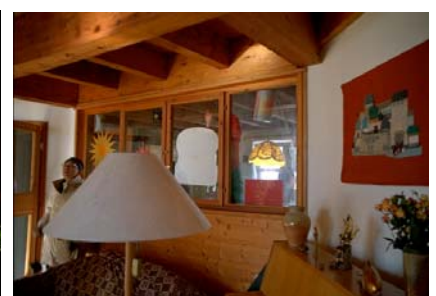
各住居棟に陽が当たるように配置されている。日本のようにハーモニカ型にならない。各棟はまた自然の香りがする庭でつながれていて、日本のように四角くて平らな表情ではない。各部屋にサンルームがついている。



キッチン。内倒しの窓で換気する。



サンルーム。陽と風を取り入れる。



リビングとキッチンの間の間仕切り。

## 外 部

団地内で出るゴミの内、生ごみはコンポストで処理される。しかし、このコンポストはただのごみ箱と同じ様なもので、どうして分解されていくのか不思議な気がする。また、団地内の植栽のごみは指定の場所に捨てられ、自然に腐らせて土に戻す。兔小屋もあって、子供達が面倒をみている。

水は雨水を樋から集めて池に集積させているが、川をつくり、ビオトープの池を経て、また川になって、砂場を経由してタンクに集められる。そこからまた池の上流に置かれた∞の形を描きながら水が流れるシュタイナーの水の彫刻を経て池まで流れる。

池は2mの深さで、冬は凍るが、子供が半凍りの時に落ちると危険なので、コンクリで底をつくり、90cmの深さにした。以前夏にここを訪れた時には、このオープンスペース部分は緑が鬱蒼と繁っていて気持ち悪いくらいだったが、冬の今はとても清潔にみえ、池では子供がスケートをして遊んでいた。

この団地が完成した当時は市の援助があって家賃はとても安かったが、今は補助がなくなって倍になっている。それでもここを出ていく人は本当に少ないという。

現在111戸あって、住人は280人。その内子供は110人である。

団地内にはリフォームショップと呼ばれる自然材ショップがあって、住人がひっきりなしに出入りしている。自然食品、自然衣料用品、本などが売られていた。日本製ではなく、ドイツ製の豆腐や梅干しなどがあった。



生ゴミは右にあるごみ箱の中に入れて分解するという。ただ入れておくだけでどうして分解するのだろうか？



シュタイナーの水の彫刻。∞の形を描きながら水が流れる。水是最長の経路を流れることになり、酸素を取り込んで浄化する。



池は夏はビオトープだが冬はスケート場になる。



リサイクルショップ。天然系のもものばかり。